

3501 住江織物

吉川 一三 (ヨシカワ イチゾウ)

住江織物株式会社社長

スマートファブリックの研究開発を企図

◆2016年5月期第2四半期決算概要

国内景気は、消費税増税の影響が薄れ、原油安による製造コストの低下や訪日外国人の増加によるインバウンド需要の拡大等、内需を中心に持ち直しが見られた。海外では、米国においてドル高による企業収益へのマイナス影響があるものの、堅調な雇用環境と個人消費で、景気は回復基調が続いた。しかし中国経済の減速が一次産品の下落を招き、資源国経済のダメージへ連鎖し、世界経済に大きな影を落とした。

このような状況の中、当第2四半期の売上高は488億61百万円(前年同期比12.4%増)となり、計画値を8億61百万円上回った。営業利益は17億83百万円(同17.2%増)、経常利益は20億1百万円(同2.6%増)となり、共に計画値を上回っている。特に経常利益は、前年同期に計上されていた為替差益や負ののれんの償却額がなくなったものの前年同期比50百万円の増益となった。四半期純利益は、大阪事業所の整地費用1億円を特別損失に計上したこと等により10億81百万円(同3.4%減)となり、計画値も下回った。利益率は、営業利益率3.7%(計画値3.2%)、経常利益率4.1%(同3.8%)、純利益率2.2%(同2.4%)であり、営業利益率、経常利益率は期初計画を上回った。なお平均為替レートは、前年同期実績が1ドル=109.45円、期初計画では115円を設定していたが当第2四半期の実績は121.73円である。

◆事業セグメント別業績概況

インテリア事業については、オフィスビルや商業施設、ホテル向けの業務用カーペットが、受注物件の増加に伴い売上は前年同期を上回った。特に水平循環型リサイクルタイルカーペット「EGOS®(エコス)」は国内販売のみならず、海外への輸出も増加して売上を伸ばした。また、カーテンでは「mode S®(モードエス)Vol.7」および「ディズニーシリーズ」が好調に売上を伸ばしたほか、2015年7月に発売した「U Life®(ユーライフ)Vol.8」も堅調に推移し、売上は前年同期を上回った。さらに壁紙でも「ルノンホーム」や量産タイプの「ルノン・マークII」がともに順調に推移した。一方、一般家庭向けカーペット、ラグ・マットでは、第2四半期以降、個人消費が弱含んだことや高温だった気候の影響もあり、売上は前年同期を下回った。以上の結果から、インテリア事業は売上高175億64百万円(前年同期比5.2%増)、営業利益2億85百万円(同271.3%増)となった。

自動車内装事業については、国内において新規に受注した車種が順調に推移したほか、収益改善の取り組みが奏功し、売上、営業利益ともに前年同期を上回った。海外では、北米の好調な自動車販売による効果と、新たに加わった連結子会社(米国・インドネシア)も寄与し、売上は前年同期を大幅に上回った。車両内装事業については、鉄道向けは、新規大型案件がないものの、新車製造の継続案件と民鉄のリニューアル改造工事が好調に推移し、売上に貢献した。バス向けは、新車発注が好調に推移しており、オプション仕様による高付加価値商材の需要拡大により、売上、営業利益ともに伸長した。航空機向けでもシート地の受注が好調に推移した。以上の結果、自動車・車両内装事業は、売上高278億98百万円(前年同期比20.1%増)、営業利益18億33百万円(同9.7%増)となった。

機能資材事業については、前年下期より本格生産となった浴室向け床材や、建築関連の機能性資材が好調に推移した。しかしながらホットカーペットは、円安進行によりメーカー各社が慎重な品揃えとなり、受注台数を落としたほか、消臭・フィルター関連も、海外向けフィルターが低調となった。太陽光電池向けシリコンインゴットのスライス事業においても受注先の減産を受け、売上、営業利益ともに前年同期を下回った。その結果、機能資材事業の売上高は 33 億 22 百万円(前年同期比 4.7%減)、営業利益は 2 億 9 百万円(同 29.6%減)となった。

◆2016 年 5 月期通期業績見通し

2016 年 5 月期の連結業績は、売上高 980 億円(前期比 7.4%増)、営業利益 38 億円(同 19.2%増)、経常利益 42 億 80 百万円(同 12.1%増)、当期純利益 25 億 90 百万円(同 34.8%増)を計画している。おおむね計画通りに推移しているため、2015 年 7 月 10 日に発表した業績予想値に変更はない。

設備投資については、投下資本のリターンを重視した効率的な投資を基本方針としている。中期 3 カ年経営計画“Advance Ahead 2018”では、製造設備を中心に 60 億円の投資を行う予定である。当期については、第 2 四半期の実績は設備投資額 4 億 10 百万円、減価償却費 8 億 90 百万円で、通期では設備投資額 15 億円、減価償却費 18 億 50 百万円を予定している。

配当は、前期実績 6 円に対し、当期は中間配当、期末配当ともに 3.5 円とし、1 株あたりの年間配当は 1 円増配の 7 円を予定している。

◆新中期 3 カ年経営計画 “Advance Ahead 2018”について

国内では、東京オリンピックを控えたホテルや鉄道車両等の改装需要が見込まれ、海外では北中米、アジア圏での自動車内装材の需要増が見込まれている。このような事業環境の中、2015 年 6 月より新中期 3 カ年経営計画“Advance Ahead 2018”がスタートした。本計画では「海外事業の更なる強化とオンリーワン商品の積極的展開」を基本方針に掲げている。オンリーワン商品とは主に、前述の水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®」に代表される、リサイクルの概念を取り入れた環境に優しい商品である。

連結数値目標は、3 カ年の目標として売上高 1,000 億円以上、営業利益 50 億円以上、ROE 8%以上、さらに中長期目標として営業利益率 5%以上、ROE 8.5%以上を目指す。

本計画のポイントとなるのはグローバルでの成長である。現在、当社グループは海外 6 カ国、12 事業所で自動車内装事業を中心に展開している。海外事業の更なる強化を図るため、このすべての事業所において「勝てる原価づくり」を目指した見える化を図り、業務改善を進めている。また、M&Aにより子会社化した新たな企業が今後の収益に大きく寄与することから、本計画の達成確度は高いと考えている。

海外事業強化の一環として 2015 年 6 月に米国子会社 STA が買収した Bondtex 社は、自動車用内装材のウレタンラミネート加工事業や、医療用ファブリックの製造および販売を行う企業である。STA は、同社の買収により、業務の垂直統合による事業領域の拡大、米系自動車メーカー等への販路開拓、新規商材の拡販等を進める。

◆独自技術によるオンリーワン商品を積極的に展開

2015 年 7 月に新発売した水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®EX-7000」は、業務提携したイタリア最大の原糸メーカーであるアクアフィル社の 100%リサイクルナイロン「ECONYL®」を表面のパイル糸に使用することで、再生材比率を従来品より更に高めている。ライフサイクルアセスメントによる当社従来品との比較で、再生材比率 83%、CO2 削減率 44%と、マーケットの主流であるナイロン糸を使ったタイルカーペットの中では、世界最高水準の環境対応商品であり、国内のみならず、海外でも非常に高い評価を得ている。業界最高水準の環境商材を有するオンリーワン企業として、今後も国内外で積極的に拡販に努める。

新規商材としては、浴室向け床材を開発した。この商材は、簡易滑り止めフィルム「OH フィルム」の開発等で培

ってきた、オレフィン素材のシート成形技術が活かされており、適度な柔軟性や親水性等、浴室に求められる数々の機能を満たしている。オレフィン素材は燃焼しても有毒ガスが発生しない、人と環境に優しい素材である。前期より納入を開始しており、当期は通年で売上に寄与する。

なお、当社テクニカルセンターでは、オレフィン素材をはじめ、銀メッキ繊維、布帛電極、布帛型太陽電池等の研究開発を行っている。例えば、繊維製の布帛電極は、インテリア製品に組み込むことで、室内環境を測定し、制御するセンサとなり、また、生体情報を計測するウェアラブルセンサに用いることで、医療、介護、見守りといった分野での活用も視野に入れている。今後、オープンイノベーションを活用し開発を進め、将来的には他社との協業により商品化を目指していく。

(平成 28 年 1 月 26 日・東京)

(平成 28 年 1 月 27 日・大阪)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見るができます。

<http://suminoe.jp/ir/setsumeii/>